

I 実践

1 研究主題

誰に対しても思いやりの心を持ち、助け合い、粘り強くやり遂げる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「心豊かに健やかで、たくましく行動できる児童を育てる一かしく・やさしく・たくましく」を教育目標としている。それを受け、人権教育の視点から、「誰に対しても思いやりの心を持ち、皆と仲良くできる子を育てる」「仲良く助け合い、粘り強くやり遂げる子を育てる」の2点を掲げて取り組んできた。

本校の児童の多くは、明るく元気で素直であり、友達と協力し合いながら活動できる。しかし、その反面、一部の児童は自己中心的な行動や心ない言動から、周囲とトラブルになることも少なくない。また、家庭環境によって、基本的生活習慣の定着や道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの個人差も見られる。

そこで、学校教育活動全体を通して、一人一人が相手の立場を思いやれる心や助け合う心の育成を図り、『自分の大切さ・他の人の大切さをお互いに認めること』ができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 人権意識を高める人権週間の設定

イ 豊かな心を育む体験活動の充実

2 実践内容

(1) 人権意識を高める人権週間の設定

ア 人権教育に関する映画やVTRなどを各クラスで視聴

各クラスで人権教育に関する映画やVTRなどを視聴した。全員が人権メッセージを作成した。

イ 人権メッセージの作成

人権教育に関する映画やVTRを視聴した後に、人権メッセージを作成し、人権啓発推進センター主催の「人権についてかんがえてみませんかーあなたの思い・わたしの思いー」に代表の作品を応募した。また、書いた人権メッセージは、各教室に「人権コーナー」を設置し、全員の人権メッセージを掲示することで、児童への人権意識を高めることにつながった。



(2) 豊かな心を育む体験活動の充実

ア さわやかマナーアップ週間 ～あいさつ運動～

「場に応じた挨拶がきちんとできる、坂本の子」の実現を目指して毎月「あいさつ運動」を展開している。気持ちのよい挨拶ができるようにすると共に、挨拶を通して、好ましい人間関係をつくることをねらいとしている。毎月、担当学年の学級が、晴れの日には正門前で、雨の日には昇降口付近で、7:50～8:05まで、朝の挨拶を呼びかけた。期間中は、校内放送での呼びかけも行われ、各学級では、朝や帰りの会、道徳、学級活動の時間を利用して、重点的に「場に応じた挨拶」の指導を行った。また、「あいさつ運動」の様子を、生徒指導便りで紹介することで、児童の意欲を高めた。

イ 地域高齢者との交流

4年生児童が、地域の高齢者とふれあい会食をする「ふれあいサロン」を実施した。坂本地区に住む一人暮らしの高齢者の方々を招いて、音楽やダンスを発表したり、一緒にゲームや会食をしたりして楽しく交流することができた。また、地域の敬老会に参加し、長寿を祝って、5年生が「合唱」、6年生が「よさこいソーラン」を披露した。お年寄りにも喜んでいただき、児童もやりがいを感じることもできた。

ウ 4年生福祉体験

4年生は、総合的な学習の時間に、福祉をテーマにした学習を行っている。そこで、福祉体験として、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験を行った。映像で体の不自由な人の生活の様子を見たのち、実際に体の不自由な人の体験をした。車いすで動くことの大変さや、高齢者の方の体の重さなどを実感できた。高齢者や体の不自由な人達に対して、どのように接したらいいか、普段の生活で自分たちにできることはないかなどを考えることができた。



エ いじめZERO集会

坂本委員会の児童たちが、全校児童で、いじめについて考える集会を開いた。まず、いじめを見て見ぬふりをしてしまう、主人公の絵本の読み聞かせをし、それを聞いて感じたことの発表がそれぞれの学年からあった。また、「さかもと」を頭文字にしたスローガンや、ゆるキャラなども坂本委員会が作成した。集会の後は、NHKの「いじめを考えるキャンペーン めざせ！100万人の行動宣言」として、児童一人一人がいじめに対しての考えを書いた。人権に大きく関わる問題と向き合う機会となった。



3 成果

- 人権メッセージでは、ある児童が「わたしは、いじめをする人は、どんな気持ちなんだろうと思う。されている人も、誰かに言えればいいと思う。でも、実際にそんな時になると、周りがしているとしてしまい、自分がされているとだれにも言えない。そんなとき、いじめをしない人、されている人を救う人になりたい。」と書いていた。このことから、いじめをされる人の気持ちを考えられたことがわかる。また、「いじめZERO集会」の取り組みでは、いじめに関する参考資料などを使っていじめの残酷さを訴えた。そのため、児童一人一人が、いじめについて「人の気持ちや命の大切さを考えて、いじめと思われるようなことを絶対しない。」「みんなにやさしくする。みんなとなかよくする。」などの、自分の行動目標を立てたことで、人権問題に関する意識の高まりにつながった。
- 学校や地域で行う行事や地域の方々との体験を通して、相手を思いやる気持ちが育ってきている。また、学習・生活全般を通して、友達を思って行動したり、友達に気遣ってもらうことで友達の良さを発見したりすることができ、自尊心の高まりが見られるなど児童同士の関わり合いの中で、豊かな心が育ってきた。

II 今後の課題

人権教育は、学校の教育活動全体で行われていくものなので、今後も、様々な場面で、人権について考える場や体験活動を意図的に設け、子供たちの人権感覚を高めていきたい。また、教師自信も、日頃の子供たちとの関わりを見直したり、校内研修を行ったりして、人権を意識した教育実践に努めていきたい。